

伝統と文化の共演

都城興玉神社夜神楽大祭

内神殿が国の重要文化財に指定されている安久町の興玉神社で12月29日、古事記編さん1300年を記念した都城興玉神社夜神楽大祭が開催されました。高千穂町の秋元地区保存会が、国の重要無形文化財に指定されている夜神楽全33番のうち「彦舞」など10番を奉納。境内には多くの観客が詰め掛け、日頃見る機会の少ない荘厳な神々の舞いに目を奪われていました。主催した中郷商工会青年部の後久正さんは「たくさんの人に楽しんでもらえてうれしい」と祭の成功に手応えを感じていました。



三社詣で健康祈願

新春初詣健康マラソン大会

新春の恒例行事「初詣健康マラソン大会」が1月2日、山之口町安楽寺周辺で開催されました。今年で33回目を迎えた地元住民手作りの同大会には、好天に恵まれた486人が参加しました。選手らは、安楽寺を出発してコース途中の野正八幡宮に参拝し、今年1年の健康を祈願。その後、熊野神社までの行程で健脚を競い合い、走り初めを楽しみました。家族で参加した面高はなさん（祝吉小3年）は「家族で参加しました。風邪をひかないようお祈りをしました」と息を弾ませていました。



予約して目的地にスイスイ

乗り合いタクシー「あじさい」出発式

山之口地区予約型乗り合いタクシー「あじさい」の出発式が1月4日、同町永野地区で行われました。市長や地域の代表者らがテープカットを行い、運行開始を祝福。3月まで試験運行を行い、4月から本格運行する予定で、山間部と中心部を結ぶ3路線を、曜日ごとに1日3往復します。日時や場所などを予約して、1回200円で利用できます。通院に初乗車した永野道子さんは「家族の休みに合わせて送迎を頼んでいましたが、これからは便利になります」と運行を喜んでいました。



威勢のいい掛け声に高値続出

平成25年取引業務始め式（初競り）

都城地域の台所、公設地方卸売市場で1月5日、取引業務始め式が行われました。市場取引の活性化と安定供給、今年1年の無事故を祈願した三本締めの後、池田市長の「はい、なんぼっ」の掛け声で競りがスタート。競り人や仲買人の威勢のいい掛け声が場内を飛び交う中、鮮魚や地元産の野菜などが次々と競り落とされました。今年の景気を占う初競りでは、長引く不況を吹き飛ばせとばかりに、鹿児島県産の7キロの鯛に3万円、バラ30本に1万5,000円のご祝儀価格が付きしました。



豊作を願うモグラ退治

モグラウツ(モグラ打ち)

1月5日、乙房町平田地区で五穀豊穡^{ほうじよく}を祈願する「モグラウツ」が行われました。この地区と山田町竹脇地区で伝承されている正月の伝統行事。地元の小学生38人が地区内の家々を回り「モグラ打つが来たど」などとはやしながら庭先や畑で、束ねたわらを地面に打ちつけ、作物に害をもたらすモグラを追い払いました。毎年子どもたちの訪問を楽しみにしている平島タツさんは「モグラ打ちが来ないと1年が始まらないですね」とモグラ退治のお礼にお菓子や祝儀をあげていました。



竹のはじける音が鬼を追いかう

オネツコ(鬼火焚き)

今年1年の無病息災を祈願するオネツコが市内各地で行われました。竹のはじける音で鬼を追いかうといわれることから鬼火焚きとも呼ばれるこの行事。1月6日に行われた平塚町のオネツコでは、子ども用と大人用の竹で組んだ2つのやぐらが準備され、数え年で7歳になる子どもと厄年の人たちがそれぞれのやぐらに点火すると、瞬く間に大きな火柱となり、夜空を焦がしました。実行委員長の山元宗一さんは「平穏で健康に過ごせる1年になってほしい」と立ち昇る炎に願っていました。



市民の命を守る消防団員の勇姿

消防出初め式

市民の生命と財産を守る消防団員による消防出初め式が1月13日、沖水川市民緑地で開催されました。団長を先頭に消防団員1、116人が勇壮な分列行進を披露。続いて、池田市長らが団員の服装や規律動作を点検した後、丸野保育園の園児らも参加して、消防車91台による一斉放水が行われました。式典で池田市長は平成23年に起きた東日本大震災での消防団員の勇敢な行動に触れ「この教訓を生かし、日頃の訓練に励んで、細心の注意を払って災害に対処してほしい」と訓示を述べました。



福の神が来訪！ 家内安全を祈願

カセダウイ(かせだうり)

小正月の伝統行事「カセダウイ」が1月14日、志和池や沖水、山田地区で行われました。下水流町第2地区では、顔を灰墨^{へぐろ}で黒く塗り、蓑笠をまとった地元の壮年会員らが福の神にふんして、地区内の50戸を訪問。手打ちそばや洗剤などの日用品を身ぶり手ぶりで高く売り付けようとする福の神と、酒食でもてなして値切ろうとする家主とのこっけいなやり取りに、家々が笑いの渦に包まれました。帰りに、家人らは田んぼの水が枯れないよう福の神に水を浴びせ、今年の豊作を祈願していました。





集落営農法人として 6次産業化に取り組む

農事組合法人きらり農場高木
代表理事組合長

中之丸 新郎 さん



集 落内に農地を持つ農家が共同で農業生産を行う集落営農。その先進的な経営手法を学ぼうと、昨年全国から20団体285人が研修に訪れた農事組合法人きらり農場高木。その代表理事組合長を務めるのが、中之丸新郎さん（高木町・76歳）です。

もともと、肥育牛や酪農経営を営んでいた中之丸さん。昭和62年から26年間務めた農業委員会委員や、平成元年から16年間務めた市議会議員の経験を買われ、平成17年に高木農事振興会の会長に就任しました。その後、高木地区の農家の経営安定や農地保全への取り組みが必要と考え、集落営農法人の設立に着手。平成18年4月には、312戸の地区内農家の意向をまとめ、同法人を設立しました。

同法人の経営する面積は、水稲やバレイショ、大豆など約200ヘクタール。連作障害にも配慮した効率的な農地利用のルールを確立したことから、地域内に耕作放棄地などは見られません。

「より一層の経営の効率化を図るためには、売り方が重要。雇用の安定化にもつながる」と話す中之丸さん。現在、自前の野菜を使ったコロッケやがねなどの加工品を近隣の商業施設で販売しています。今年、今年は事業拡大に向けて加工場の新設を予定。新たにみその生産や販売も目指しています。「付加価値を付けるだけではなく、消費者に安心安全な地元高木町産の農産物を届けたい」と生産から販売までを行う6次産業化に向けた決意を語ります。

「今では、寝ても覚めてもきらり農場高木のことばかり考えています。長期的な目標を設定するといふよりは、身近な問題を構成農家の協力で一つ一つ解決していきながら、ここまで成長してこれました。一番の生きがいですね」と同法人への思いを話していました。

環霧島探訪

— かんきりしましたんぼう —

Vol.10

今月は、高原駅開業100周年記念事業を紹介します。

◎問い合わせ 高原町まちづくり推進課 ☎0984-42-2111

5月の高原駅開業100周年を盛り上げ、JR吉都線の利用促進や地域活性化につなげようと昨年11月9日、高原駅開業100周年記念実行委員会が発足しました。

実行委員は、商工会やライオンズクラブ、青年団協議会、駅周辺で活動している各種団体の15人のメンバーで構成。実行委員長に就任した高原町観光協会事務局長の福留宜文^{よしかみ}さんは「町民総参加で節目を盛り上げられるよう頑張りたい」と意気込みを話していました。

実行委員会では5月11日(土)には記念式典を、5月19日(日)には記念

イベントを企画してい

て、開催に

向けて着々

と準備を進

めています。

記念式典



実行委員会のメンバー



JR吉都線を走るSL

予定しています。また、記念イベントでは、高原町ふるさと大使で、イメージソング「吉都線」を制作した大野勇太さんによるライブのほか、太鼓の演奏やダンスの披露、焼肉フェスタ、物産展なども行い、盛大に祝う予定です。

現在、高原駅にちなんだ写真や思い出のエピソードなどを募集中です！ 詳しくは、実行委員会事務局まで問い合わせください。

◎問い合わせ

高原駅開業100周年記念実行委員会事務局

☎0984-42-2115

※環霧島圏域のイベン

ト情報を、市ホーム

ページで紹介してい



白菜のミルクスープ

野菜たっぷりスープ

盆地生まれの
元気^{元気}をいただきます

※1人分100キロカロリー、塩分1.2g



●材料(4人分)

白菜…200g ニンジン…20g エノキ茸…1/2束 小松菜…20g
水…400cc 固形コンソメ…1個 牛乳…200cc
(A) 鶏ミンチ…120g (B) 薄口しょうゆ…小さじ1
酒…小さじ1 塩…小さじ1/4
ショウガ汁…小さじ1 こしょう…少々

●下準備 白菜…一口大に切る ニンジン…薄くいちょう切り
エノキ茸、小松菜…2~3cmの長さに切る

●作り方 ①(A)を混ぜ合わせ、団子状に丸める
②鍋に水と白菜、ニンジン、エノキ茸、コンソメを入れて煮立て①を加えて煮る
③②が煮えたら小松菜を加えて(B)で味付けをする
④最後に牛乳を加えて一煮立ちさせる

白 菜は、味に癖がないので鍋や汁物、炒め物などさまざまな料理で楽しむことができます。また、ビタミンCや食物繊維が豊富に含まれるので、風邪の予防や腸の動きを助ける働きがあります。

ワン!ポイント

半分に切ったものを保存するときは、株の根元に切れ目を入れると白菜の成長が止まるので、鮮度が長く保たれます。

◎問い合わせ

健康課 ☎23-2765

